

♪我孫子アコーディオンクラブ「第7回 サロン コンサート」ぶらり訪問記♪

2013 年 12 月 1 日(日)14:30 開演 会場 あびこ市民プラザホール

千葉市に住む関東アコの実行委員より、『自分たちが日頃利用している我孫子市の施設で「我孫子アコーディオンクラブ サロンコンサート」のチラシを目にしたけれど、地元にそのようなクラブがあることを知らなかったこと、また、チラシに載っていた問合せ先に電話をしてみたら 27 年の歴史があるというので、これは是非ニュースに載せたい』と広報部に提案がありました。早速チラシを見た方に連絡を取っていただきコンサート当日、終了後に取材をさせて頂くことになり、千葉在住の実行委員 2 人と筆者の 3 人でコンサートにお邪魔をして活動の様子を伺ってきました。まず、当日のコンサートの様子から紹介します。

会場は、常磐線我孫子駅から徒歩 5 分ほどで、ショッピングプラザの 3 階にあり、平場のホールに 30 センチぐらいの山台を敷きステージが作られていました。180 席ほど用意された客席は開演時には満席になっていました。

ピアノ伴奏にアコーディオンが 7 人の構成で、衣装は 3 部まで上下黒で統一されていました。

プログラムは、「オープニング：私の回転木馬」の後、4 つのグループに分かれていて 1 部『魅惑のシャンソン・コレクション』では、♪街角 ♪雪が降る ♪白い恋人達 ♪ドミノ ♪パリ祭 ♪おお シャンゼリゼの 6 曲を、例えば司会者が「雪が降るは、1997 年にサルバトーレ・アダモが作曲し、その後日本でも安井かずみを書いた日本語の歌詞をアダモ自身が歌い大ヒットしました。また、白い恋人たちは、1968 年フランスのグルノーブルで開催された冬季オリンピック大会の模様をドラマチックに描いた映画で、その映画にフランシス・レイが美しいワルツ調のテーマ曲を作曲、世界中で大ヒットいたしました。それでは雪が降る、白い恋人達、2 曲続けてお聴きください。」と解説をしながら 2 曲ずつメドレーで進行します。

ピアノがしっかりリズムを刻んでいるからか、アコーディオンの 7 人は全員右手だけでの演奏で、3 パートぐらいに分かれて音の重なりによるハーモニーを楽しんでいるようでした。この形は最後まで同じでした。



2 部『クラシック名曲アルバム』での演奏曲は、♪アンダンテ・カンタービレ ♪アイネ・クライネ・ナハトムジークの 2 曲です。クラシックを演奏するのは珍しいようで、とくに「アイネ・クライネ・ナハトムジーク」はメンバーから演奏したいリクエスト曲として出されていたこともあって、ピアノ、編曲、指揮者の脇田峻多郎氏がじゃあ取り上げてみようかと「今回は、クラブのチャレンジ用にと各楽章のよく知られたフレーズをつなぎ合わせるなど楽しめる曲にアレンジした」と解説していました。

3 部『アコーディオンと歌声の広場』では、女性歌手が歌のリードに加わり会場と一緒に「ローレライ」（プログラムに歌詞が載せてある）を歌いました。続いて「マリア・マリ」をピアノとアコーディ



オン伴奏で独唱（写真）。次はアコーディオンソロが 2 曲、最初の方はアコーディオン愛好者によく知られた「ボルプタ」を演奏。気持ちの良いテンポで最後まで曲が流れていて素敵な演奏でした。

二人目の方は、「エル・レリカリオ」を演奏、私は初めて聞く曲でした。作曲者は「ホセ・パディーヤ」で司会者の曲紹介によると、この曲はスペインの行進曲風舞曲（パソドブレ）で 吹奏楽でよく演奏される曲ですが、アコーディオン演奏用に編曲されているとのこと。歯切れの良い演奏で、右手のメロディーが早くなると左手のベースも刻みが細くなるけれどリズムが崩れることもなく、老若男女がスペインの輝く太陽のもとで陽気にお祭りを楽しんでいるような様子が浮かんできてくる演奏でした。

続いてはピアノソロを 1 曲「ウィーンわが街」。お客様の中にはピアノ独奏を楽しみに、また、歌手の独唱を楽しみに毎

回聴きに来るといの方もたくさんいるようでした。

司会者は、ピアニストの脇田氏を、「昨年 9 月新国立劇場で上演された“センポ”（SEMPO）というミュージカル（数千人ものユダヤ人の旅券を発行して、迫りくるナチスの魔の手から救った東洋のシンドラーと呼ばれている外交官杉原千畝を主人公にしたミュージカル）の音楽監督として 1 か月間舞台に臨まれ、大成功を収められました。」「オーケストラボックスでは指揮をしながらピアノを弾き、また、一部作曲も手がけられておりました。これからますます活躍の場が広まることと思います。」と紹介されていました。

3 部の最後は（三拍子で、“高鳴る調べにいつか〜”の日本語訳でよく知られている）喜歌劇「メリー・ウィドウ」から「メリー・ウィドウ・ワルツ」の独唱でした。

4 部『タンゴ・ステージ～愛と情熱の歌～』では、タイトルにふさわしい真っ赤な衣装に着替えて登場です。♪ラ・クンパルシータ ♪小さな喫茶店 ♪真珠採りのタンゴ、と 3 曲を演奏。続いて、歌手が加わり ♪ジェラシー ♪バラのタンゴ ♪小雨降る径の 3 曲の歌でプログラムはおしまいでしたが、会場いっぱいの拍手に促されてアンコール演奏がありました。

全体を通してやさしく流れる演奏は、



多くの人に親しまれている曲ばかりで、映画を見ながらテーマ音楽を聴いているように肩の力を抜いてゆったりと楽しむことが出来ました。目を閉じてじっと聴き入っているお客さんの姿も見られました。

取材には、代表者山中氏他 2 名に途中からピアニストの脇田氏も加わり打ち上げに移動するまでの時間を使わせていただきました。

代表者山中敏男氏の話による我孫子アコーディオンクラブの歩み

昭和 62 年、市内の有志数人で結成され、月 1 回代表者宅で楽器を持ち寄り歌謡曲を中心に合奏を楽しむグループとなりました。そのころから我孫子市の文化政策の一環として市内各所にコミュニティーセンターが建設され、練習、発表の拠点ができたおかげで、大正琴、ハワイアン、ジャズコーラス、マンドリンクラブ等が誕生し、平成 2 年に「我孫子市軽音楽協会」が発足し、昨年 10 月 6 日、24 回目の軽音楽演奏会を実施しました。

アコーディオンクラブは、大正琴とともに発足からのメンバーとして協会の運営に参加しております。設立当時のメンバーは高齢のため引退された方もおられて 2 名を残すのみとなりましたが、伴先生の直弟子だった二人が加入するなど現在の 7 名になりました。

平成 11 年、指導者に脇田峻多郎先生をお迎えし、編曲、ピアノをお願いし今年で 13 年目となります。

平成 18 年 3 月、第 1 回サロンコンサートを開きました。平成 20 年、第 2 回を開き、以降毎年開催しております。

脇田先生を迎える以前は、ダンスパーティーとかボランティアが主体でステー

ジでの演奏は年 1 回の「我孫子軽音楽演奏会」出演のみでしたが、現在では年間 5 回ぐらいステージで演奏するようになりました。

以降は、こちらの質問に答えていただいた中からの紹介です。

◎伴先生に習っていた方を指導者にベースをやり始めているけれど地域の活動が詰まってくるとなかなか時間が取れないので、日常的には合奏が多いようです。

◎練習は月に 2 回で、追い込みに入ると最後の 1 か月は毎週やることもあるようです。パート練習は、脇田先生がピアノ演奏を CD に起こしてみんなに配り、生徒は自宅で CD を聞きながら各自練習をしてくる。そしてみんなが揃ったときに先生の指導で合わせ、そこで指摘されたところをまた自宅で練習してくることに繰り返して、1 ステージ 17～8 曲の内 10 曲ぐらいは新しい曲を演奏するようにしているのでレパートリーも 90 曲ぐらいになりましたとおっしゃっていました。

◎歌手の方は、クラブが出来たときからの専属歌手で、美空ひばりからクラシックまでなんでも歌っていただいているとのこと。また、ピアニストも歌手の紹介で、どんな曲でも編曲してくださるので、懐メロからクラシックまで幅広い選曲ができるので自分たちは非常に恵まれているとおっしゃっていました。

《代表者連絡先》

山中敏男 TEL/FAX 04-7187-0960

他の団体の演奏を聴くのもとても面白いです。関東アコにはオープン参加も可能なので是非参加をして頂き、これを機会に交流できれば嬉しいです。

取材のために貴重な時間を頂きありがとうございました。 (文責：乙津)